

# このまま衰退しますか？もう1度復活しますか？

～20年後の世代交代を見据えたコンパクトシティ構想～

チーム名：D Slight   メンバー：佐藤寛美・中山理恵・山下祐一郎・都田康介

## ～背景～



# 5/76

菊池一族により整備されたまちで、昔は県北有数の文化経済の拠点であった。市街地からは徒歩圏内に菊池温泉、菊池神社などの歴史的観光地、飲食店や老舗のお菓子屋など魅力あるものが多数存在。

旧菊池市が繁栄していた過去の栄光を忘れることができず、歴史・文化を語るだけで、身の前で廃れていくまちをどうにかしなければという意識が薄い。現状のままでも、住んでいる自分たちは困っていないというのが理由の一つと考えられる。

この数字は、平成30年に実施された空き家・空き店舗調査の結果。76軒ある空き家・空き店舗の中で「貸す意思のある物件」はたった5軒。店を開けなくても生活ができる、店舗兼住宅のため、そもそも人に貸したくない。さらに、よそ者を受け入れたがらない風潮が見受けられる。



住民の意識が変わらなければ、  
まちは衰退してしまう・・・

## 商業エリアと住宅エリアに分け、3つの「つなぐ」を提案！

### 3つの政策提言

#### ①～外と内をつなぐ～

空き家・空き店舗を活用して、中心市街地の外から人を呼び、内に住む人達とのつながりを作っていく、外の人が入ることで、新しい考えや意識、行動を体感させ、住民の意識が変わっていくよう促す。

- ・空き店舗を活用して、新規起業家のためのお試し店舗をつくる
- ・関係人口づくりを勧めるために、地域と関わりながら滞在できる環境の整備
- ・仕事の対価として地域通貨の付与
- ・地域おこし協力隊の活用



#### ②～人と人をつなぐ～

中心市街地の中には休憩して、交流するような場所がないため、フリースペースを設け、住民間のコミュニティーの場として人と人をつなぐ。

- ・住民提案型でイベント等や講座など自由に開催し生きがいづくりの場の提供
- ・フリースペースに駄菓子屋を併設し、高齢者と地域の住民や子どもたちと触れ合うきっかけの場の提供
- ・子ども達を見守る環境の提供
- ・高齢者と子ども達との交流を通して「菊池」の歴史を教える機会づくりの提供



#### ③～歩いてつなぐ～

「歩く」をテーマに、菊池市中心市街地を散策し、楽しみながら散策するイベントの開催と観光を組合わせての観光客の呼び込みまた、散策することによる健康増進を図る。

- ・歴史的街並み、観光資源を利用し、歩きながら楽しめる「リアル宝探し」の開催
- ・老舗お菓子屋巡り
- ・歩くことで健康増進を図り、疲れた体を温泉や足湯で癒し、菊池温泉の魅力の創出を図る
- ・車の通りや速度制限の実施



これからの未来を考えた時、このままでは菊池市の中心市街地といわれる場所は確実に衰退し消滅する。中心市街地周辺は、観光・生活の両面において環境が整っているし、他の地域と比較しても、大規模な都市開発の必要もないほど物は揃っている。しかし住民が動かない。そこで上記のような3つの政策を進め、住民の意識を変えることからまちの活性化は始まると考える。



持続可能なまちづくりの実現！！